第１回　国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区体験的歴史学習基本構想検討委員会
議事要旨

１．議事の公開について

・事務局より資料の確認があり、全会一致で承認された。

２．趣旨説明

・事務局より委員会の趣旨について説明があった。

３．設置要領（案）の承認、委員長選出

・事務局より委員会の委員会要領（案）の説明があり、全会一致にて了承され、同要領が平成２２年２月１８日より施行された。
・事務局より平野侃三委員を委員長とすることが提案され、全会一致で了承された。
・平野委員長より三輪嘉六委員が副委員長に指名された。

４．委員からの主な意見

・本公園ではハードよりソフトや運用面での工夫が重要である。例えば、地元の方々やボランティアと連携して公園内の田畑を管理した場合、彼らが収穫物についても自由に利活用できるような「飛鳥方式」ともいうべき方式を創出してほしい。
・基本計画策定時には、渡来人の居留した本拠地は高取町などもう少し南だったのではという考えがあったが、その後の発掘調査によってその存在が明確になってきたので、歴史的体験では渡来人と関わりがあったことが強調されるべきである。
・検出された大壁建物などを復元せず別の形状で施設を作るのはいかがなものか。
・檜隈寺跡は本地区にとっては肝心なものであり、文化庁管轄の史跡であるからといって公園事業では白抜きにするというのではなく、高松塚古墳のように文化庁と国交省が協調して整備を進めていくべきである。
・近年の発掘調査で従来想定されていなかった遺跡の発見があったことは、新たな事実として慎重に受け止め、場合によっては基本計画の見直しを含めて議論を進めていく必要がある。
・この地は、大和政権によって渡来人が入植された前史があり、その特性を計画に位置付けていく必要がある。同時に、飛鳥の歴史空間の中での位置付けも意識する必要がある。
・渡来人のもたらした技術・文化そのものを拾い上げることに終始せずに、それらが段階的に日本の技術・文化と融合していった点にも注目する必要がある。
・ユーザーの視点に立って飛鳥を議論するべきである。また、地域との連携や市民との共生の視点が大切である。
・キトラ古墳、檜隈の特性を生かすためにも、それぞれの特性を体験的歴史学習の中にしっかりと位置付けることが大切である。
・本地区における体験的歴史学習ではかなり広い範囲のことを対象としており、運営は多くのボランティアの参加が欠かせない。そのため、多くのボランティアをコーディネートす

るエデュケーターをどうつくるかが重要である。

・公園ボランティア「飛鳥里山クラブ」や飛鳥地方で活動している観光ボランティアガイドなどがエデュケーターとして育ってほしい。

・明日香村では、飛鳥保存財団も大学と連携しながら活動しているので、大学との関係を深めながらやっていくことも重要である。

・ボランティアについては、飛鳥らしい独自のやり方で考えていくことが必要である。

・開園前イベントプログラムのような開園前から地元と一緒に行う取り組みは重要である。

・１回の体験で完結するプログラムと、継続的なプログラムとではかなり形が異なるので、そのあたりの整理が必要である。

・飛鳥への来訪者がただ風景を楽しむだけでなく、歴史を学びつつ、だんだんと飛鳥のイメージを深めていくといった段階的なプログラムがあるとよいと思う。

・本地区だけではなく、他の施設と連携していくことが重要である。

・体験する施設を地区内に整備することは賛成だが、檜隈寺跡の近辺（南側）は避けた方がよい。また、韓国の扶余で百済村を復元しているので参考にしてはどうか。

・古墳のレプリカなど来訪者の知的好奇心をくすぐり、雨天時やシーズンのオン・オフに関係なく利用できる屋内施設があるとよい。

・食事のできるレストラン程度があってもよいのではないか。

・これまで凍結的保存を進めてきた結果残った資産や景観を生かして、地域が活きる明日香らしい産業をつくることにつながる議論を期待したい。